

採材現地検討会の開催について

平成30年7月30日、西和賀町沢内志賀来国有林で、岩手南部森林管理署と岩手南部森林管理署遠野支署合同の採材現地検討会を開催しました。

30℃を超える猛暑の中、請負事業体、検知事業者、管内自治体関係者等86名の参加により、スギ、広葉樹の供試木6本を対象として、有利な採材方法を検討し、実際に切り確認を行いました。

今回の検討会では、担当者が普段の業務で指示に困るような木を選木し準備、参加者の中から請負事業体2社、立木販売買受者と県南広域振興局（広域・花巻・一関）、森林管理署の若手など5団体に検討、実演をお願いしましたが、皆さん苦慮しながら採材（切る）位置をテープで表示を実演していただきました。

その後、東北森林管理局青森事務所、岩手県森林組合連合会からどれが有利採材なのか意見の判れるものがあり、実際に採材し、曲がり具合等から優位な採材、考え方等の指導を受けました。

青森事務所からは、パルプ材以外の一般材、合板材等の2mが連続する場合は、4mに採材することにより、造材回数（切る回数）が減り、搬出、はい積、運搬での積み下ろしなどの時間が短縮できること、2m材より4m材は単価も高く、生産コストの削減と販売単価のアップの効果が期待できる。などコストに影響も与えること、県森連からは、広葉樹の貴重な資源を、安易にパルプ材として採材しないこと、広葉樹は、生産から販売までの迅速な対応が必要であり、伐採時期等の対応を事業体、発注者側と連携するよう話がありました。

今回の検討会を受け、事業体と署が連携し、コスト削減と有利採材に向けた取り組みを進める事を意思統一し、今年度の検討会を終了しました。



開会式



スギの採材検討状況



東北森林管理局青森事務所からの指導



曲り材の玉切り状況